

立命館大学



化学科同窓会ニュース

— 第7号 —

編集：立命館大学化学科同窓会事務局

編集責任者：岩 橋 清

〒603 京都市北区等持院北町56-1

立命館大学化学科内

TEL 075-465-1111

(内3645)

あいさつ

会長就任にあたって

会長 田村 季 照

(株京都第一科学)

晩秋の候、会員の皆様方におかれま

しては、各界各分野にて益々活躍の



こととお慶び申し上げます。併せて日頃は同窓会の運営につきまして何かと格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、はからずも皆様方のご推挙によりまして、母校化学科同窓会の第二代会長に就任致すことになりました。

もとより浅学非才の身、学識経験共にすぐれた吉田前会長の任期満了に伴う、後任の会長候補としてご指名を受けました時にも、その任に堪えない旨を述べ、ひたすらご辞退申し上げたのでありますが、引き受け手がありませんのでは会の運営が停頓してしまいますので、適任ではありませんが、お引き受けすることに致しました。

しかしながら、あえてこの重責をお受けした以上は、自由闊達な母校を愛する者の一員として、その本義にのっとり微力を捧げる決意しておりますので、まずは幹事会の方々を初め、皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

惜越ではございますが、早速恒例により当同窓会を運営していく上で、幾らかの所感と希望の一端を述べさせていただきます。

本会の創立の目的は、会員相互の理解と親睦をはかることにあることは今更申す迄もないことですが、ともすると私達の所属する理工学部化学科は独立独歩的色彩が強く、他の学部学科と比べ会員相互の横のつながりが、極めて薄いと感じているのは私ばかりでなく、多くの方々の一致するところではないかと存じます。

従いまして今後は何らかの形で会員の結束力を強め、その絆をより強固なものにしていくことが私に課せられた最大の任務ではないかと思っております。その為には、これから先、各種の会合には出来る限り多くの方々の積極的なご参加を仰ぐことはもとより、特に先輩諸氏が當日頃から社会活動を通して、後輩を立派に育て上げると言う社会的責任感を、今迄以上に持つて頂くことが何よりも大切ではないかと考えます。

幸い、理工学部創立五十周年を記念して同窓会名簿も刷新されました。約六千余名にもなる化学科同窓生を良い意味で利用し合い、お互い切磋琢磨することによって、会員各位の今後のご活躍とご発展に結びつけて頂ければ願ってもないことと存じます。又、そのことによって日本の政治、経済、社会文化の発展につながっていくことが出来れば、同窓会の持つ意味合いも素晴らしいものになるのではないかと思っております。まさに同窓会の社会的使命もその辺にあるのではないかと考えます。これを機にどうか化学科同窓会に対する皆様方のご理解とご認識を深めて頂き、ご協力を切にお願い申し上げます。

最後に母校の益々の隆盛と会員各位のご健勝を心よりお祈り申し上げますと共に、当同窓会の今後益々の発展の為に、ことの大小を問わず、直接的にも間接的にも充分なご協力を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。誠に勝手ですが、就任のご挨拶と致します。

(31年卒)



着任時の私は 神原研究室に机と椅子を
子をおいて座っていた（まだ研究室が
なかった）。分析と高分子はコンパをよ
く一緒にやった。豪快に飲み、豪快に
笑う先生の顔が思い浮かぶ。あるコン
パ、それも二次会の後、威勢のよい先
生を自宅まで送った。車を降りて玄関
までと言う私を振り切って、先生は狭
い路地を曲がって消えて行つた。その
後、玄関前のドブに落ちて骨折し、先



神原富民先生 1961年当時

神原富民先生
北村一夫先生

のご冥福を心からお祈りします

神原富民・北村一夫両先生を偲ぶ

化学科
林
晓

昭和三十四年の何時頃だっただろうか。始めは「立命館に来る気ないか」その中「きてくれよ」と神原先生の誘いがあり、迷った挙げ句「お世話になります」「正式にきまった」のやり取り

生の欠席は一ヶ月にもなった。当時の卒業生諸君は覚えていと思う。私としては何とも言えない気持ちだった。あれもこれもみんな過去の思い出になつてしまった。

りがあつて、三十五年四月私は化学科に着任した。その日、同時着任者として顔を合わせたのが北村先生だった。もう三十年も前のことである。

神原先生の計報に驚き、続いて北村先生の計報にも接した。お二人ともまだそんなお年ではない。それぞれ事情あって途中で立命館を去られたが、化学科を愛し、育てるのに一生懸命だった。学問には厳しく、学生には優しい先生達だった。大変に淋しい。心からご冥福を祈りたい。

着任時の私は、神原研究室に机と椅

たのもこの頃のことである。

過ぎ去った日々、通り過ぎた人々はもう帰つては来ない。しかし、教えを受けた卒業生諸君・同僚だった私達の心には、お二人の姿は何時までも焼き付いている。現在のように整備され、さらに新キャンパスに向けて飛躍しようとしている化学科の姿を、天国のお二人に何時までも見守っていて戴きたいと願つて筆を擱く。

たのもこの頃のことである。

昭和三十七年十一月一日付けで、立命館大学教授から北海道大学理学部教授として赴任された神原富民先生を慕って、私も三十九年四月に津軽の海を越える事になった。先生のお力添えで、大学院学生になることができ、以来、二十五年の長きに渡り、色々指導、ご教授いただいた。ここに記して感謝申し上げる次第である。

立命館大学在学中における神原先生の印象は、あまり記憶にないが、分析化学の分野、特にポラログラフィーでは、大家であると言うもつばらの噂を先輩方から聴いたくらいであった。そして、とても近寄り難い大先生であると言う印象を持ったのである。

北大に勤務された頃の先生は、体力に自信みなぎる、まだ四十歳前半の若

手教授であり、講座(研究室)の卒研生をぐいぐいと引っ張られて、研究に精を出される一方、教養部からやってきた学生の実験指導では、立命館大学での経験をもとに、マスプロ教育の手法を約三十名の学生に強いたので学生の反発もときにあったが、この授業の展開にとても驚いたのは、自由放任主義的指導体制(帝国大学時代の良き風習)をとっていた先生方であったと言う。この主旨は、時が経つにつれて周囲の人達から理解されるようになった。先生は、とても頑固な方であった。このことが研究を押し進める過程で弟子達と意見の一致をみないこともしばしばあり、大変な激論の末、先生を手にこずらせることにもなったのである。先生も私達も若かったし、血気旺盛だ

恩師 神原富民先生を偲んで

長谷部 清 (39年卒)



昭和40年当時の衣笠学舎でのスナップ



神原富民先生ご夫妻と北大の同窓生
(函館高専校長宅前にて)
昭和63年7月23日



御家族とご一緒に

平成元年七月三日北村一夫先生が逝去されました。享年七十七歳でした。一同心からお悔やみ申しあげます。

私は昭和三十一年から四十二年まで先生の師事のもとに、学問と研究に専念させてもらいました。この間に先生の人格、識見の高く広いこと、しかも心やさしい教育者であったことを知りました。それ故、いつでも困れば相談し、指導していただきました。

先生の七十七年の足跡は、大きくとらえますと、研究者としての教育者の態度は分離並行するものでもなく、全く人間くささのある親しみやすい、量りなき生命のお姿でありました。

私が大学院に在学しているとき、化学するものは「自由と頓」でなければ工夫と独創が出てこないよ、と言われましたことは今でも私にとって強烈に新鮮です。

合掌
(大谷高等学校教諭)

恩師 北村一夫先生を偲んで

梶田晋司 (40年卒)

昭和四十七年先生は金沢大学へ移られました。そのあと現在の林隆俊先生が迎えられましたことは、皆様周知のことです。金沢大学時代の先生は、やはり立命館大学時代の研究テーマを主として、研究生活と教育活動に専念され、私は金沢大学研究員として先生と共に論文を発表させてもらいました。退官後はもっぱら奥様をお連れして、花の写真の撮りに旅に出ることを楽しみにしておられました。

このたび若輩の私に先生の追悼文とお声をかけて下さいましたことは、同時に立命館大学理工学部化学科を振り返えさせられ、なつかしくも楽しい思い出となりました。北村一夫先生のご冥福をお祈り致しますと共に、立命館大学理工学部化学科のご活躍を念じます。

北村一夫先生のご略歴

昭和十三年三月京都帝国大学理学部化学専攻卒業、金沢大学工学部助教授を経て、昭和三十五年四月に本学理工学部助教授として着任後、定年退職されました。昭和四十七年三月までの間、有機化学、油脂化学などの講義を担当され、油脂化学研究室で卒研の指導にあたりました。昭和四十七年四月に、金沢大学教育学部教授として赴任、昭和五十二年四月に定年退官後、自宅でお過ごしでした。

つたからであらう。先生は私達によく「三十五歳までに自分の進む道をきめるように努力しなさい。」と鼓舞された。このことも先生が大学を卒業後、職業人になるまでのご苦労からの教訓によるのであらう。

先生はとてもお祭が好きな方でもあった。コンパでは、ドイツ語の歌や日本の歌曲、讃美歌などを好んで唱われた。鉄道唱歌は東京、新橋から京都、大阪までも、また、北大恵迪寮歌、都ぞ弥生、も五番まで全てであり、教養部から理学部に移行してきた学生の歓迎会などでは、それだけで移行生は、おのき、たじろいてしまうほどであった。

神原先生は、昭和五十八年、停年を三年残して函館高等工業専門学校に校長として赴任、学校行政に手腕を発揮

されることとなるが、大学在任の間、二百余編の論文と数十編の著書、その他の業績を残された。釧路高専での校長会議に出席途上、列車のなかで様態の急変により、国立帯広療養所において本年四月二十七日昇天された。まだ六十六歳と言う年齢であり、弟子の私達は誰一人としてこれを信じられないでいる。退官の晩には、札幌の街で賑やかにワイワイ飲ろうとおやっておられたし、私達だれもが大変楽しみにしていたのに、今となっては永久に果たせぬ夢となってしまった。

衷心により、先生の御冥福をお祈り申し上げます。どうか安らかにおねむり下さい。

(北海道大学理学部化学科環境化学講義座助教)

神原富民先生のご略歴

昭和十九年九月京都帝国大学理学部化学科卒業、京都大学農学部助手を経て、昭和三十一年六月に本学理工学部助教授として着任後、三十五年四月教授に昇任、退職されました昭和三十七年十月までの間、分析化学、化学数学などの講義を担当され、分析化学研究室で卒研の指導にあたりました。昭和三十七年十一月に北海道大学理学部教授として赴任、昭和五十八年三月まで在職されました。昭和五十八年四月に、函館工業高等専門学校長に赴任され、ご活躍中でした。

この間に、昭和四十四年十月に日本分析化学会学賞を受賞され、昭和五十八年四月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

科学技術セミナー

高機能プラスチック材料

—新素材と新技術—

大阪府立産業技術総合研究所
評価技術部長

吉井 稔



レンド、ポリマーアロイ、ポリマー改質などにより高強度、高弾性、耐熱性、導電性、電磁波シールド性などの特定の要求特性を満たすプラスチック材料もエンブラの範疇に含まれ、この方面研究が盛んである。

エンジニアリング・プラスチック

エンブラ (E: Engineering Plastics) は、汎用プラスチックと比較して、一般的に目安としての定義があり、それは、引張強さで、およそ 50 kg/cm^2 、耐熱温度 100°C 以上で、コストが約 $1,000 \text{ 円/kg}$ 以下と言われている。しかしながら、最近の材料科学の進歩は目覚ましく、特殊な機能を持った材料が次々と開発されて、この定義にはあてはまらない高機能材料が出現し、そのコストも高くスーパーエンブラと呼ばれるものも多くなっている。

液晶ポリマー

今、注目されている材料は液晶樹脂 (LCP: Liquid Crystal Polymer) で、その存在は古くから知られていたが、

実用化が困難視されていた。ところが、防火服や防弾チョッキとして知られるケブラー (全芳香族ポリアミド) 繊維として実用化された。その驚異的な強さと軽さで注目され、これに刺激されて数々の液晶ポリマーの研究が行われ、現在、非常に多くの液晶樹脂が市場に出ている。

プラスチック材料が、各分野で驚異的な発展を遂げたのは、原料コストが高いにもかかわらず、アッセンブル化された時に、その生産性によりスケールメリットから低コストで供給されたからである。一般に良く知られている射出成形法は、その典型で、材料を加熱溶融し金型内で冷却することにより完了する。従って、生産速度が早く、構成部品の一体化が容易であり、加えて生産ラインの自動化により省力化が可能にした。

最大のネックは、その耐熱性能である。成形性の良いポリマーは、耐熱性が低く、耐熱性の良いポリマーは成形性に種々の問題を起こし、生産性を著しく低下させる。

そこへ登場した、液晶ポリマーの特徴は、樹脂が溶融して、等方性流動体となる温度よりも成形温度が低いことである。つまり、液晶のままで成形ができるため、成形温度が低いにもかかわらず、耐熱性に優れている。従って、成形品は配向性が高く物性に長短面の効果をもたらしている。著しい異方性は、極端な例で示すと「度」の「竹」のようでタテとヨコとでは強度を異にする。これが、弾性率、寸法安定性、耐熱性、成形性、成形収縮など優れた効果をもたらしている。

形状記憶樹脂

形状記憶合金については、十数年来いろいろな形で紹介されているが、言われる程には実用化が進んでいない。これは、コストが非常に高いことと、記憶できる変形の幅が小さいことに起因すると考えられる。

一方、形状記憶樹脂についても、実用化への緒についたところである。しかしながら、金属合金に比較してコストは二、五〇〇円/kgと2桁低く、変形幅が非常に大きいことから、実用性が高いと思われる。現在のところ、物珍しさから玩具や雑貨での応用が中心のようであるが、今後の展開は耐食性を併せ持つので、住設機構の自動開閉や工業用部材への応用に期待がもたれている。

プラスチック複合材料

新素材として期待される炭素繊維やアラミド繊維などによるプラスチック複合材料は、鉄などの金属材料の強度

を凌ぐ機械的性質を持ち、軽量性、耐食性など数々の優れた性質を兼ね備えているところから、既に多くの分野で構造用部材として使用されている。特に、その軽量性、高強度から航空機、自動車、スポーツ、レジャー分野への応用が多い。

この分野での成形技術には、多くのノウハウを包含しているのでベンチャー的な中小企業が、その技術力で活路を見出しているのが特徴である。

成形技術の新しい展開

プラスチックの成形加工技術は、少品種大量生産によるスケールメリットにより今日の発展を見たことをすでに述べてきた。ところが、最近のユーザーニーズは、多品種少量生産へ移行し、金型コストの製品に占める割合が大きくなりこれがネックとなってきた。以前から、簡易金型の研究が行われているが、これとは別に、樹脂液中にレトザー光線を照射することにより、金型無しで、硬化させる成形法が実用化され、注目されている。

他方、成形加工技術の新しい展開としては、無機材料の射出成形に関する研究で、その中心はセラミックスや焼結合金などの射出成形への応用で、実用化も行われている。現時点では、バインダーとなる樹脂の含有量が高く、焼結後の体積収縮が大きく、寸法精度に問題が残るため、この点の解決が待たれる。

(昭和36年卒)

同窓会通信—PART I—

—総会
だより—

本年九月十日(日)午後一時
三十分より京都市東山区の
「都ホテル」、「比叡の間」
に於て、第三回総会が開催されました。
本島先生を含めて約百二十名の会員が
出席しました。

谷口幹事の司会で開会し、初めに黙
禱を行い、過去三年間に御逝去された
恩師の神原富民先生、北村一夫先生を
含む三十五名の会員のご冥福をお祈り
しました。続いて、吉田会長の挨拶の後、
議長に石原氏(二十五年卒)と小林
氏(三十年卒)を選出し、議事が進
められました。

—総会での議事内容—

①松田幹事より、前回の総会以降の経
過の概要及び理工学部創設五十周年
校友大会の開催に至るまでの経緯に
ついて報告された。

②白石幹事より昭和六十三年度事業報
告、小島幹事より昭和六十三年度決
算報告及び東京地区懇親会決算報告
がそれぞれ行われた。二名の会計監
査は欠席であるが、決算書にある署
名をもって監査報告に代えたい旨の
提案を承認し、質疑の後、上記諸報
告を承認した。(次頁参照)

③松田幹事より平成元年度事業計画案
小島幹事より平成元年度予算案がそ
れぞれ提案説明され、質疑の後、こ
れら計画案、予算案を承認した。(次
頁参照)

④役員選出方法について、幹事会原
案を提案する方法で審議を進めるこ
とを承認、岩橋役員選考委員長より
幹事会での審議経過、さらに会長候
補者、顧問候補者及び他の役員候補
者の選出に当たった選出基準、選
出経過が説明された後、原案が提案
された。質疑の後、別表の新役員が
承認された。

審議終了後、新役員が紹介され、代
表して田村新会長の挨拶があり閉会し
ました。総会終了後、同都ホテル内で
開催されました理工学部創設五十周年
校友大会に合流しました。

理工学部創設五十周年校友大会

九月十日(日)午後三時より京都市東山
区の「都ホテル」に於て、理工学部創
設五十周年校友大会が開催されました。
谷岡総長、西村理事長、広校友会会長
をはじめ退職された先生方、現職の先
生方を含む招待者約八十名、各学科卒
業生約八百名(内化学科卒業生百二十
名)が参加し、第一部は、午後三時か
ら始まり、谷岡総長、大南理工学部長
の挨拶に続いて、山田進一国際関係学
部教授の記念講演が行われ、第二部の
懇親会では、半世紀に及ぶ卒業生の輪
が会場一杯に広がりました。
尚、当日現職の先生方をはじめ、旧
教員の本島、山下、杉田、鈴木、諸先
生方が御出席下さいました。

化学科同窓会役員名簿(敬称略)

.....年度幹事.....

顧問

本島 健次 (旧教員)

会長

田村 季照 (31年卒)

副会長

竹内 良夫 (28年卒)

庶務幹事

岩橋 清 (23年卒)

会計幹事

白石 晴樹 (47年卒)

会計監査

市川 延繁 (28年卒)

専門学校

(一部工科)

宇佐美博三 (33年卒)

昭和18年卒

服部 定治 (35年卒)

昭和19年卒

野村祐三郎 (36年卒)

昭和20年卒

清水 保孝 (37年卒)

昭和21年卒

岩橋 清 (38年卒)

昭和22年卒

志多野義夫 (39年卒)

昭和23年卒

石原 進 (40年卒)

昭和24年卒

山田吉之助 (41年卒)

昭和25年卒

山田 益三 (42年卒)

昭和26年卒

山田 幸司 (43年卒)

昭和27年卒

三宅 宏和 (44年卒)

昭和28年卒

磯島 文雄 (45年卒)

昭和29年卒

山上 満 (46年卒)

昭和30年卒

元川 宏史 (47年卒)

昭和31年卒

香川 彰朗 (48年卒)

昭和32年卒

岡本 朗 (49年卒)

昭和33年卒

花沢 明 (50年卒)

昭和34年卒

久保 繁夫 (51年卒)

昭和35年卒

佐々木 豊 (52年卒)

昭和36年卒

近藤 照雄 (53年卒)

昭和37年卒

大谷 芳彦 (54年卒)

昭和38年卒

秦 修 (55年卒)

昭和39年卒

北尾 嘉一 (56年卒)

昭和40年卒

本田 正弘 (57年卒)

昭和41年卒

東 博之 (58年卒)

昭和42年卒

野田 長政 (59年卒)

昭和43年卒

篠原 昭信 (60年卒)

昭和44年卒

村上 俊男 (61年卒)

昭和45年卒

阿部 重典 (62年卒)

昭和46年卒

木村 俊久 (63年卒)

昭和47年卒

宮地 淳 (64年卒)

昭和48年卒

白石 晴樹 (65年卒)

昭和49年卒

小東 賢治 (66年卒)

昭和50年卒

澤村 精治 (67年卒)

昭和51年卒

本庄 秀一 (68年卒)

昭和52年卒

米沢 忠弘 (69年卒)

昭和53年卒

松本 浩一 (70年卒)

昭和54年卒

小島 一男 (71年卒)

昭和55年卒

河村 真也 (72年卒)

昭和56年卒

岩上 猛 (73年卒)

昭和57年卒

岡田 豊 (74年卒)

昭和58年卒

井口 晃 (75年卒)

昭和59年卒

木戸 隆宏 (76年卒)

昭和60年卒

河野 宏彰 (77年卒)

昭和61年卒

谷本 道雄 (78年卒)

昭和62年卒

北河 英次 (79年卒)

昭和63年卒

中井 義一 (80年卒)

昭和64年卒

神山 達志 (81年卒)

昭和65年卒

野口 剛 (82年卒)

昭和66年卒

古川 博一 (83年卒)

昭和67年卒

木本 直樹 (84年卒)

昭和68年卒

鶴田 衛 (85年卒)

昭和69年卒

早川 聡 (86年卒)

昭和70年卒

菊池 英知 (87年卒)

昭和71年卒

西明 和彦 (88年卒)

昭和72年卒

目方 康人 (89年卒)

昭和73年卒

赤松 和也 (90年卒)

昭和74年卒

清水 昭夫 (91年卒)

昭和75年卒

廣林 研史 (92年卒)

昭和76年卒

齊藤 昌彦 (93年卒)

昭和77年卒

坂根 正恭 (94年卒)

昭和78年卒

町川 徹 (95年卒)

昭和79年卒

大山 良隆 (96年卒)

昭和80年卒

奥野 茂樹 (97年卒)

昭和81年卒

花崎 知則 (98年卒)

昭和82年卒

小田 政浩 (99年卒)

昭和83年卒

吉田 利一 (100年卒)

昭和84年卒

坂本 益子 (101年卒)

昭和85年卒

平木 利一 (102年卒)

昭和86年卒

山田 剛 (103年卒)

昭和63年(1988年)度事業報告

I. 諸事業

- 1) 1988・7 昭和63年3月卒業生名簿作成
- 2) 1988・9・20 同窓会ニュース(No.6)の発行
- 3) 1988・10 全会員への通信(1回目)(ニュース、新卒者名簿、年会費の請求等)
- 4) 1988・10 東京地区懇親会の案内送付
- 5) 1988・11 全会員への通信(2回目)(第5回科学技術セミナーの案内、年会費の請求等)
- 6) 1988・11 在校生への通信(ニュース、セミナーの案内)
- 7) 1988・11・19 東京地区懇親会(東京駅、ルビーホール)
- 8) 1988・11・27 第5回科学技術セミナー(末川記念会館)
- 9) 1989・3・25 平成元年3月卒業生を対象とする年会費の請求及び名簿の販売

II. 諸会議

- 1) 幹事会

1988・7・10	第1回	中川会館	406会議室
1988・11・27	第2回	末川記念会館	第2会議室
1989・3・12	第3回(緊急)	中川会館	406会議室
- 2) 事務局会

1988・5・22	第1回	中川会館	406会議室
1988・11・27	第2回	末川記念会館	第3会議室
1989・3・12	第3回(緊急)	中川会館	406会議室
- 3) 諸会議

1988・7・10	同窓会ニュース編集委員会(第1回)
1988・7・29	同窓会ニュース編集委員会(第2回)
1988・8・26	東京地区懇親会実行委員会(東京都中央区茅場町)
1988・10・10	セミナー等運営委員会
1989・3・12	名簿作成委員会

昭和63年度一般事業会計決算報告

<収入の部>

繰越金	593,647
会費	979,000
寄付金	182,500
雑収入	30,222
	1,785,369

<支出の部>

セミナー補助費	18,490
会議費	48,820
印刷費	374,750
郵送費	690,060
人件費	271,800
事務局費	4,060
雑費	67,760
提出金	0
予備費	0
	1,475,740

次年度繰越金 309,629

昭和63年度特別事業会計決算報告

<収入の部>

繰越金	2,263,193
提出金	0
名簿売上(一般)	70,000
名簿売上(学生)	51,000
名簿荷造送料	16,000
雑収入	25,168
	2,425,361

<支出の部>

事務費	0
名簿荷造送料	10,000
人件費	135,300
予備費	107,200
	252,500

次年度繰越金 2,172,861

平成元年(1989年)度事業計画

I. 諸事業

- | | 予定年月 |
|---|-----------|
| 1) 全会員への通信(1回目)(総会及び理工校友大会の案内、年会費の請求、名簿の訂正・追加版の発行等) | 1989・7 |
| 2) 名簿(第2号、昭和61年版)の訂正・追加版の発行 | 1989・8 |
| 3) 第3回総会開催(講演会及び懇親会は理工学部創設50周年校友大会に合流) | 1989・9・10 |
| 4) 同窓会ニュース(No.7)の発行 | 1989・11 |
| 5) 全会員への通信(2回目)(第6回科学技術セミナーの案内、年会費の請求等) | 1989・11 |
| 6) 第6回科学技術セミナー | 1989・11 |

II. 諸会議

- 1) 幹事会

第1回	1989・7・23
第2回	1989・10
- 2) 事務局会

第1回	1989・7・23
第2回	1989・10・26
第3回	1990・2
- 3) 諸会議

a) 役員選考委員会	必要に応じて年数回
b) 名簿作成委員会	"
c) 同窓会ニュース編集委員会	"
d) セミナー等運営委員会	"

平成元年度一般事業会計予算

<収入の部>

繰越金	309,629
会費	3,000,000
寄付金	1,000,000
雑収入	240,000
	4,549,629

<支出の部>

セミナー補助費	70,000
会議費	100,000
印刷費	550,000
郵送費	750,000
人件費	350,000
事務局費	20,000
総会費	250,000
雑費	150,000
提出金	1,500,000
予備費	809,629
	4,549,629

平成元年度特別事業会計予算

<収入の部>

繰越金	2,172,861
提出金	1,500,000
名簿売上(一般)	400,000
名簿売上(学生)	160,000
名簿荷造送料	60,000
雑収入	20,000
	4,312,861

<支出の部>

事務費	30,000
名簿出版費	892,000
名簿荷造送料	60,000
人件費	200,000
予備費	3,130,861
	4,312,861

同窓会通信—PART II—

第五回

科学技術

セミナー報告

セミナー等運営委員長

竹内良夫

昨年十一月二十七日に、第五回科学セミナーが末川記念会館で開催されました。

「講演の内容は、

「最近のプラスチックについて」

大阪府産業技術総合研究所

プラスチック部長 吉井 稔氏

「農業保護政策をめぐって」

大阪薫英女子短期大学講師

磯野 喜美子氏

で、共に生活に直結する話題で、大変興味深く拝聴致しました。

今年のセミナーは、十二月三日の開

催を予定しておりますので、多数の会

員の方々が参加下さいますようお願い

申し上げます。なお、セミナー終了後、

講師の方々と混えて懇親会を開催しま

すので、併せてご参加下さいますよう

ご案内申し上げます。

同窓会ニュース用原稿の募集について

次号(平成二年八月発行予定、発行部数約六千部)の原稿を次の要領で募集しますので、ご協力をお願いします。

一、「会員のページ」、「トビックス」欄の原稿募集

①一件千〜二千程度

②「会員のページ」欄は、随想、提案のような内容、「トビックス」欄は、製品・技術紹介的な内容を求めます。

③募集切は、平成二年七月上旬

なお、事前に事務局にご連絡下さい。

TEL. 〇七五-四六五-一一一

(内線 三六四五)

FAX 〇七五-四六五-八三三七

(化学科専用)

「パーソナル広告」の募集

①大きさ…一件につき巾約7・5cm

縦4・5cmの長方形

②内容・形式…自由

③字体…指定可。但し、指定書体・マークがあれば同封下さい。

④広告代…一件一万円。但し、支払いは個人・企業別を問いません。

一、送付先及び連絡先…立命館大学化学科同窓会事務局宛

一、切…平成二年七月上旬

